



今回の追加予算に関する諸問題

(昭和二十九年八月)
櫻 辰 哥

目 次

一、当初の予算	一
二、当初予算の変更	一
三、政府の追加予算案	二
四、司令部案の追加予算	三
五、その後の経緯	三
六、その他	四



一、当初予算

政府において決定した当初の予算は、総額一、一〇〇億円で、その取崩には収収七〇〇億円で、専使収入二五〇億円、その他一五〇億円を足らぬでいた。この予算を編成した当時、特別会計に四〇〇億円の赤字が出る予想であつたが、これは年度中における公債の引上で半分の解決がつく見込であつた。

したがつて、この予算は全体の国家バランスを考慮して作成せられたもので、一般会計には赤字を出さず、特別会計に二〇〇億円、その他地方財政に約五〇億円の赤字が出る予想であつた。

これに対する公債は、金融機関引受を建前とし、本年三月限り資金の統制を行つてきた。金融機関資金のうち二〇億円は財政資金に、一〇億円は後金債券の消化に、二〇億円は折換支拂に充てる予定であつた。

二、当初予算の変更

ところが、この当初予算は、その後の事情で追加予算の計上を不可避とするに至つた、その主要な原因として、左の如きものが挙げられる。

(一) 前年度予算案の影響

二十一年度予算案が今年の四、五、六月に大きく響き四、五月各月政府と同じ割合で、

七〇億円の、通債の増発を要した、ところが当初予算では、この期間通債の増発はない計算であつた。

(二) 公債の改訂

本年八月の公債の引上げは、本格的に予算の性質を一変した。

(三) 繰越処理費の新規要求

本年五月追加命令が出て、新たに六、〇〇〇万の住宅を建設せよと要求して来た。当初予算のこの費目二七〇億円は、新規建設を見込んでおらず、前年分の未了工事と本年に引継ぎ完成する予定であつた。この結果、今年の新築一〇〇万戸、八千万円の追加支出は、本年八月には、一〇億五千四百平均支出されるに至つた。この割合をみると当初の二七〇億円は十月中旬には足りなくなるわけである。

三、政府の追加予算案

この間において、七月二十四日第一般会計追加予算六九二億円を閣議決定した。その内訳は、繰越処理費一億、繰越関係費用を含む二五〇億円の増収、地方分年税繰入七六億、公営土木費五二億、一般物産改定その他三三億、増収は、繰越処理費は物産の騰貴を見込んでいた程度で、六、〇〇〇万の新規建設は含んでいなかった。

つた模倣である。なお、徴城模倣に対する報復制も考慮してみたいと思ふ。

（ 福田 主 計 研 長 ）

一、目的

財政收支実勢調査会設置要領 (案)
本調査会は、財政経済の実勢を近代経済学及び統計学によつて分科調査し、その動態を綜合的に把握するのを目的とする。

二、業務

- (一) 財政経済の実勢の分科とその動態の把握に関する調査
- (二) 財政を中心としたわが国経済構造の変動分科と予測
- (三) 国民實力の実績の分科と予測並びに資金配分に関する検討
- (四) 財政経済の実勢その他に関する諸問事項に對する答申

三、組織

本調査会には、委員長一人、副委員長三人及び委員若干名を置く
なお、必要に依り関西部会を設ける。